

ぼくのひいおじいちゃん

清水小学校 五年 野口 伶音

八月十五日、今年もこの日がやって来た。日本が終戦をむかえた日。今年は、戦後七十年だそう。テレビでも、新聞でも特集が作られるほど、大切な日だ。

ぼくのひいおじいちゃんは、戦争で亡くなった。フィリピンで戦死したそう。その時、ぼくのおじいちゃんは、八才だったそう。

おじいちゃんが、戦争の事をたくさん教えてくれた。食べ物がない、まずしい生活。お米もなくて、お肉もなくて、魚もなくて、毎日、野菜の生活。ほとんど、さつまいもばかり食べていたそう。おじいちゃんは、六人兄弟。六人の子どもたちを、ひいおばあちゃん、ひとり育ててくれたそう。着る物もないので、人からももらった古着をいつも着ていたそう。今のぼくたちの生活からは、考えられない事だ。食べ物がないなんて考えられない。

ひいおじいちゃんの、骨はかえってきていない。木の箱の中に、小さな木ぎれが一つかえってきたそう。国のために戦ったのに亡くなった姿も骨さえも、家に帰って来れなかった。ひいおじいちゃんもひいおばあちゃんも、そしておじいちゃんもかわいそうだなと思った。今でもお墓の中には、木ぎれしか入っていない。そんな事、ほんとうに悲しい。

ぼくは、ひいおじいちゃんと、もちろん会った事はない。ひいおばあちゃんも、ぼくが生まれる前に亡くなっていて、会った事はない。ひいおじいちゃんは、どんな気持ちだったんだろう。どんな場所で、どんな死に方をしたの。ひいおじいちゃんの帰りを待っていたひいおばあちゃんは、どんな気持ちで小さな木ぎれを受けとったの。だれも知らない。悲しくなる。

戦争は、絶対だめだ。国と国が戦うなんて、絶対やめてほしい。

戦争は、みんなを不幸にしてしまう。多くの人が亡くなるのは見たくない。ぼくも、兵士になりたくない。戦争には、行きたくない。だから、地球から戦争を失くしたい。戦うのをやめてほしい。平和は大切だ。これから先も、ずっと、平和な地球であってほしい。そして、ぼくは、ひいおじいちゃんや、戦争で亡くなった、たくさんの人たちの気持ちを考えながら生きていこうと思う。だからおじいちゃん。もっともつと教えてください。ぼくたちの知らない戦争のことを。ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃんの生きた時代のことを。ぼくたちは伝えていきます。人の命の重さと平和のとうとさを。